

2020年10月23日(金)

老球の細道569号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART・VI〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

米国遠征合宿は11日間に渡りバスケットボールの聖地インディアナ州「エバンズビル大学」を拠点に行われた。さすがに山崎先生の選ぶ場所は違っていた。大学の女子部はNCAA デイビジョンIのチームでキャシー・ベネットH・C(後にインディアナ大学)。今や「バックラインディフェンス」で一世を風靡するバージニア大学H・C トニーベネット(2018NCAAチャンピオン)のお姉さんである。男子部は元ユタ・ジャズH・CでJ・ストックトンとK・マローンを率いたジェリー・スローンの出身大学である。

少しの読者から「アメリカでの合宿の様子を楽しみにしています」という感想メールをいただいたので、当時私が記した『会津高校バスケットボール米国遠征同行記』から抜粋して、山崎先生の思い出と平行しながら、もうしばらくこのシリーズを続けたいと思う。

◆7月19日(日)

会津若松駅前で白虎隊像の前で記念写真を撮って出発した。成田空港では、海外旅行は初めてという生徒が多く、皆、目の穴、鼻の孔、耳の穴を大きく膨らませて成田ステーションを見まわしていた。このような好奇心満載の表情こそ生きるエネルギーの源泉である。

いよいよ搭乗である。航空機は米国ノースウエスト、行先はデトロイト。約10時間かかった。無事デトロイトに着いたのは良かったが最初の困難が待ち構えていた。今回の参加チームはケンタッキー州ルイビル空港現地集合だったので、そこまでは会津高校単独で、しかも添乗員なしで行かなければならなかった。私が添乗員役で非常に不安だった。

生徒に入国審査の受け答えを説明して、生徒は無事審査をパスして入国できたが、私の順番で事件は起きた。「どこまで行くのか？」の質問に、集合場所のルイビルと答えた後、言い直して合宿地のエバンズビルと答えたら私のみ別室に連れていかれて拘束されたのである。そこには強制送還されそうな外国人が数人暗い顔してたたずんでいた。

ルイビル空港までの全員の航空券は私が持っていたので、こんなところに私だけ引き止められては大変なことになる。検査官の人たちに精一杯の英語で通してくれるようお願いした。数人の検査官が来て、意味の分からない早口英語をまくしたて、ようやく許可スタンプをもらった。乗り換え口で待っていた生徒やOB会の先輩たちは安堵の表情で迎えてもらった。生徒たちにトラブらないように指導して自分がトラブってしまった。

[蛇足：室井の3大外国トラブル事件①1998年デトロイト事件②2010年ドイツ飛行機事件(飛行機の無料アルコールの飲みすぎで心臓鼓動がバクバク呼吸困難)③2014年スペイン血圧急降下事件(緊急の高血圧薬を一度に2回分飲み心臓バクバク)]

ルイビル空港で長崎鶴鳴、徳島城北、徳島城東チームと合流。久々に山崎先生と会った。ここでも相変わらずのヒョウキンさとち密さで皆をまとめ上げていた。この偉大なる人に会うたびに私の卑小さが浮き彫りにされた。「人、本、旅」の出会いが人間を作る。